

店

平成11年11月4日

各位

本店所在地 東京都港区六本木4-8-7六本木三河台ビル
(登記上は東京都千代田区丸の内3-2-3)

会社名 **グッドウィル・グループ株式会社**
(コード番号: 4723 店頭登録銘柄)

代表者 代表取締役会長 折口 雅博
問合わせ先 取締役管理本部長 金崎 明
電話番号 03-3405-9228

四半期の事業進捗状況について

当社の第6期第1四半期(平成11年7月1日から平成11年9月30日まで)の事業の進捗状況について、また同期間にかかる当企業グループの事業の進捗状況についてあわせてお知らせ申し上げます。

1. はじめに

当四半期における国内経済は、9月の日銀短観では3期連続の改善となる等、景気回復の兆しがでてきたとする見方もありますが、依然として円高の加速、株価の下落が続いており、今後の金融政策や財政の投融资いかにによっては予断を許さない事態も想定されます。前期に引き続き、個人消費の鈍化、企業支出の停滞の長期化からくる企業の倒産件数の増大、戦後最悪の失業率の上昇から脱却できず、個々の企業レベルでは依然として厳しい状況にあります。伝統ある著名な大企業のかつてない大規模なリストラクチャリング、リエンジニアリングの計画決定が連日各メディアで取り上げられるなど、心理的にも景気回復はまだまだ遠い感が否めません。

当社は、企業理念に『拡大発展』『社会貢献』『自己実現』を掲げる設立5年目のベンチャー企業であり、本業の軽作業請負事業を行う一方でグループ6社を統括する持株会社でもあります。当企業グループは、人材に関するあらゆる支援ビジネス(総合人材サービス)を行っており、『アウトソーシング』『人材』『医療・福祉』分野で多角的に事業展開を図っております。

2. 当社における事業の進捗状況

(1) 当社の販売状況

軽作業請負事業は、「労働力を必要な時に、必要な人数のみ、必要な場所にて確保したい」顧客ニーズに対し、作業スタッフの調達から作業の実施、完了までを請け負うサービスの提供を行うアウトソーシング関連ビジネスであります。経済情勢悪化に伴い、アウトソーシングは、リストラクチャリング・リエンジニアリングの一環として見直されており、軽作業請負事業は、産業界のアウトソーシングの普及というフォローの風を受け創業以来急成長を続けております。

当四半期におきましては、前年度より継続し、大口顧客への直接営業を実施し、かつ全国展開しております支店を有効活用しエリア地域に根ざした営業政策に傾注しております。とくに支店網拡大による営業力強化を補完すべく、7月には水戸支店(茨城県水戸市) 四日市支店(三重県四日市市)を、9月には新木場支店(東京都江東区)、大曽根支店(愛知県名古屋市中区)、高松支店(香川県高松市)および長野支店(長野県長野市)の計6支店を新設いたしました。また、休眠顧客の活性化を図るとともに既存顧客に対する定期的な営業活動を積極的に行いました。

その結果、7月に当社が店頭公開したことによる知名度および従業員のモチベーションアップ

等とあいまって、顧客の新規獲得数も順調に推移し、従来以上の安定的な収益拡大を達成することができました。今後は、さらに積極的な支店網の展開および顧客ニーズを正しく読みとりつつ、多様なサービス提供による営業力の強化を図っていきたくと考えております。

(2) 個別売上高の状況

(単位：千円、単位未満切り捨て)

品目別		期別		増減率
		12年6月期第1四半期 (自平成11年7月1日 至平成11年9月30日)	11年6月期第1四半期 (自平成10年7月1日 至平成10年9月30日)	
請負 作業	キャストイング作業	2,247,485	1,415,926	58.7%
	コンストラクション作業	68,870	51,044	34.9%
	アジャスト作業	33,960	40,777	16.7%
	その他	140,887	73,831	90.8%
合計		2,491,204	1,581,580	57.5%

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 当社が行う請負業務は人員数、期間等が一樣ではないため、数量表示は困難でありますので記載していません。
 3. 品目区分について
 請負作業・キャストイング作業 軽作業全般の請負作業
 " ・コンストラクション作業 建設、内装現場の請負作業
 " ・アジャスト作業 倉庫、工場内の請負作業
 " ・その他 事業所内軽作業の請負作業、セールスプロモーション、市場調査・競合調査、データ入力
 4. 各支店の営業体制および事務対応力が向上したため、アジャスト作業を全国のキャストイング支店ほかに振り分けております。その結果、作業売上は前四半期に比して減少しておりますが、事業部門としての売上は、当四半期で120,021千円と対前年同期比228.5%となっております。
 5. 売上高の数値は、未監査であります。

3. 当企業グループにおける事業の進捗状況

(1) 当企業グループ事業のセグメント別販売状況

(請負事業部門)

当社の軽作業請負とともに当社子会社㈱グッドウィル・コミュニケーションのIT(情報通信技術)関連の事務管理の請負が急速に伸長しております。旧来の移動体通信機器関連の業務管理(申込書の不備チェックから携帯電話の在庫管理、発送業務)の複雑な仕組みに着目した同作業の受託ならびに2次代理店様倉庫貸し業務・損益管理業務のアウトソーシング受託業務は、業界内のコスト削減に貢献しつつ拡大を続けております。また衛星デジタル放送関連の業務管理(申込書の不備チェックからチューナー取付工事、スクランブル解除等)も売上増加に貢献しております。いずれの事業も前期に立ち上げたものであります。

当四半期におきましては、前期に引き続きIT関連管理作業請負が新規事業をプロジェクト単位で立ち上げ、売上高541.9%増となりました。移動体関連が非常に好調であり、他にも新規「代理店倉庫貸」プロジェクト等が大幅に伸長し、売上増に貢献いたしました。またデジタル衛星放送関連業務におきましては、デジタルクラブの加入者増加により、期初においては工事体制が整わず若干の受注残を残しましたが、四半期でみますと順調に消化し、売上増加要因となりました。業務管理請負に関しましては業務拡大により9月に仙台支店を新設し、これにより一層のサービス拡充に努めております。

次四半期以降で特記すべき新規事業といたしましては、電子商取引の拡大を見据えB-T-O-C（企業と消費者）における業務管理（申込受付から在庫管理、商品の発送まで）の受託の準備を進めております。

（人材派遣・斡旋事業）

当社子会社株グッドウィル・キャリアは、前々期に人材派遣事業を、前期に斡旋事業を立ち上げ初期投資を完了いたしました。経済情勢の悪化、リストラクチャリング、リエンジニアリングに伴う終身雇用の崩壊、人材の流動化を背景にホワイトカラーの人を生かす当企業グループの「人材総合サービス」の中核を担う事業であります。

当四半期におきましては、前期7月よりスタート・アップした人材斡旋事業が拡大し、前年同期比312.7%増となっております。また既存事業もそれぞれ拡大し、人材派遣事業は51.0%の増加、求人広告代理店事業は当企業グループ以外で売上216.1%増となっております。人材斡旋事業はサービス業では上位2位に該当する急成長途上の市場であり、人材派遣事業も今後有望な市場と目されております。当企業グループも、この市場の拡大を上回る成長を目指して人材の獲得・事業基盤の整備を進めております。

（投融資事業）

当社子会社株GWキャピタルは、前年同四半期に資本金2億円によりベンチャー企業向け投融資事業を開始いたしました。急成長する企業に対し資金的な支援を行い、グループ内で経営を含めた人材支援をあわせて行う一方で、一般向け貸付事業も行っています。中長期的にはリバースモーゲージ事業を展開し高齢者介護サービスの利用円滑化を図る計画であります。

当四半期におきましては、資本金が10億円となり、資金・営業体制・組織の充実を図りました。直接投資では、光通信パートナーズファンドやシリコンバレーのベンチャー企業のほか、約2億8千万円の新規増加がありました。一般貸付部門におきましては、新規営業開拓面でタクシー広告、訪問営業、定期DM発送、電話セールス等を計画的に実施した結果、貸付残高は前期末に比して約2億円増加いたしました。また、業界初の金融商品“GWスーパー100（ビジネスローンで第三者保証人不要、金利一律18%）”を発売し、次四半期以降の事業推進の基礎がためを完了いたしました。更に、貸付審査方法のマニュアル化、顧客とトラブルが生じないような債権回収方法の徹底指導といった管理方法の強化を行いました。

（2）連結売上高の状況

（単位：千円、単位未満切り捨て）

品目別		期別	12年6月期第1四半期 （自平成11年7月1日 至平成11年9月30日）	11年6月期第1四半期 （自平成10年7月1日 至平成10年9月30日）	増減率
セグメント	請負事業		4,218,246	1,792,013	135.4%
	人材派遣・斡旋事業		122,708	54,934	123.4%
	投融資事業		29,243	2,526	1,057.7%
	その他		740,956	292,971	152.9%
	合計		5,111,154	2,142,447	138.6%

（注）1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 当企業集団が行う業務は人員数、期間等が一樣ではないため、数量表示は困難でありますので記載しておりません。

3. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。また上記の金額は、セグメント間の内部売上高または振替高消去後の金額であります。

4. セグメント別区分について

請負事業……軽作業（当社）IT関連業務管理作業（当社子会社株式会社グッドウィル・

コミュニケーション) 棚卸作業(当社子会社株式会社グッドウィル・インベントリー)

人材派遣・斡旋事業 …… 人材派遣、斡旋(当社子会社株式会社グッドウィル・キャリア)

投 融 資 事 業 …… ベンチャー企業等に対する投融資(当社子会社株式会社 GW キャピタル)

そ の 他 の 事 業 …… 広告代理業務(当社子会社株式会社グッドウィル・コミュニケーションおよび株式会社グッドウィル・キャリア)、データベース・マーケティング、テレマーケティング(当社子会社株式会社グッドウィル・コミュニケーション)、店舗運営・小売(当社子会社株式会社グッドウィル・インベントリーおよび同子会社株式会社データコミュニケーションズ)

5. 売上高の数値は、未監査であります。

4. 第1四半期の損益の状況

(1) 第1四半期の個別損益計算書

(単位:千円、単位未満切捨)

科 目	12年6月期 第1四半期 (自平成11年7月1日 至平成11年9月30日) (A)		11年6月期 第1四半期 (自平成10年7月1日 至平成10年9月30日) (B)		前年同期比増減	
	金 額	百 分 比	金 額	百 分 比	金額(A) - (B)	増 減 率
		%		%		%
売 上 高	2,491,201	100.0	1,581,580	100.0	909,621	57.5
売 上 原 価	1,581,921	63.5	1,005,614	63.6	576,307	57.3
[売上総利益]	909,283	36.5	575,966	36.4	333,317	57.9
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	619,148	24.9	451,361	28.5	167,787	37.2
[営業利益]	290,134	11.6	124,605	7.9	165,529	132.8
営 業 外 収 益						
受 取 利 息	2,867	0.1	3,438	0.2	571	16.6
そ の 他	954	0.0	477	0.0	477	100.0
営 業 外 費 用						
支 払 利 息 及 び 割 引 料	8,799	0.4	9,434	0.6	635	6.7
そ の 他	3,669	0.1	916	0.0	2,753	300.5
[経常利益]	281,488	11.3	118,170	7.5	163,318	138.2

- (注) 1. 上記の第1四半期の損益計算書においては、特別損益以下の項目の記載を省略しております。
 2. 事業税は、年度間の比較可能性を確保するため、前四半期においても法人税等の区分に表示しております。
 3. 前年同期比増減の欄の増減は下記の計算式によって算出しております。

$$\text{増減率} = \frac{(\text{A}) \text{ 当年第1四半期の実態} - (\text{B}) \text{ 前年第1四半期の実態}}{(\text{B}) \text{ 前年第1四半期の実態}} \times 100$$

4. 上記の数値は、当四半期における業績の速報であることから、一部正規の決算手続を経ていないものが含まれており、未監査であります。

(2) 第1四半期の連結損益計算書

(単位：千円、単位未満切捨)

科目	12年6月期 第1四半期 (自平成11年7月1日 至平成11年9月30日) (A)		11年6月期 第1四半期 (自平成10年7月1日 至平成10年9月30日) (B)		前年同期比増減	
	金額	百分比	金額	百分比	金額(A)-(B)	増減率
		%		%		%
売上高	5,111,154	100.0	2,142,447	100.0	2,968,707	138.6
売上原価	3,635,019	71.1	1,464,138	68.3	2,170,881	148.3
[売上総利益]	1,476,134	28.9	678,308	31.7	797,826	117.6
販売費及び一般管理費	944,830	18.5	555,106	25.9	389,724	70.2
(内 連結調整勘定償却)	(35,334)	(0.7)	(5,892)	(0.3)	(29,442)	(500.0)
[営業利益]	531,303	10.4	123,201	5.8	408,102	331.2
営業外収益						
受取利息	4,336	0.1	2,131	0.0	2,205	103.5
その他	2,364	0.0	1,371	0.0	993	72.4
営業外費用						
支払利息及び割引料	16,024	0.3	9,225	0.4	6,799	73.7
その他	13,979	0.3	8,193	0.4	5,786	70.6
[経常利益]	508,000	9.9	109,286	5.1	398,714	364.8

- (注) 1. 上記の第1四半期の損益計算書においては、特別損益以下の項目の記載を省略しております。
 2. 事業税は、年度間の比較可能性を確保するため、前四半期においても法人税等の区分に表示しております。
 3. 前年同期比増減の欄の増減は下記の計算式によって算出しております。

$$\text{増減率} = \frac{(\text{A}) \text{ 当年第1四半期の実態} - (\text{B}) \text{ 前年第1四半期の実態}}{(\text{B}) \text{ 前年第1四半期の実態}} \times 100$$

4. 上記の数値は、当四半期における業績の速報であることから、一部正規の決算手続を経ていないものが含まれており、未監査であります。

5. 第1四半期の連単倍率ならびに当四半期以降特記すべき事項

(1) 第1四半期の連単倍率

(単位：千円、単位未満切捨)

科目	12年6月期 第1四半期 (自平成11年7月1日 至平成11年9月30日) 連結		12年6月期 第1四半期 (自平成11年7月1日 至平成11年9月30日) 個別		連単倍率
	金額	百分比	金額	百分比	
		%		%	
売上高	5,111,154	100.0	2,491,201	100.0	2.05
売上原価	3,635,019	71.1	1,581,921	63.5	2.30
[売上総利益]	1,476,134	28.9	909,283	36.5	1.62
販売費及び一般管理費	944,830	17.8	619,148	24.9	1.53
(内 連結調整勘定償却)	(35,334)	0.7			()
[営業利益]	531,303	10.4	290,134	11.6	1.83
営業外収益					
受取利息	4,336	0.1	2,867	0.1	1.51
その他	2,364	0.0	954	0.0	2.48
営業外費用					
支払利息及び割引料	16,024	0.3	8,799	0.4	1.82
その他	13,979	0.3	3,669	1.1	3.81
[経常利益]	508,000	9.9	281,488	11.3	1.80

- (注) 1. 上記の第1四半期の損益計算書においては、特別損益以下の項目の記載を省略しております。
2. 事業税は、年度間の比較可能性を確保するため、前四半期においても法人税等の区分に表示しております。
3. 上記の数値は、当四半期における業績の速報であることから、一部正規の決算手続を経ていないものが含まれており、未監査であります。

(2) 当四半期以降に個別業績予想に影響を及ぼす事項について

(請負事業)

軽作業請負事業は、得意先の増加等の要因により当四半期以降におきましても業績向上が見込まれます。当社は、当四半期ならびに当年10月度の売上速報、通期予想データ、前期データ等を勘案いたしました結果、当期および当中間期の予想売上高、予想経常利益は、平成11年8月30日公表の決算短信に記載の業績予想を大幅に上回る見込みとなりました。

発表日現在、当社の通期の業績予想に関する修正は、以下の通りであります。

(単位：千円)

	売上高	経常利益
前回予想(A)	9,207,363	1,059,151
今回修正(B)	10,128,100	1,165,067
増減額(B-A)	921,737	105,916
増減率	10.0%	10.0%

(3) 当四半期以降に連結業績予想に影響を及ぼす事項について

(請負事業)

当社(軽作業請負事業)の通期の業績予想に関する修正は、連結の業績予想に影響を及ぼします。

また管理事務作業請負事業におきまして、(株)グッドウィル・コミュニケーションは、移動体関連の好調とデジタル衛星放送関連の新規事業が快調に立ち上がったことを受け、当四半期以降におきましても大幅な業績向上が見込まれます。平成11年8月30日公表の連結決算短信に記載の業績予想におきまして、連結業績予想に含まれる同社の業績は、当初売上高4,036,000千円、経常利益487,198千円でありましたが、発表日現在で当四半期ならびに当年10月度の売上速報、通期予想データ、前期データ等を勘案いたしました結果、売上高は7,200,000千円(増減率78.4%)、経常利益780,000千円(増減率60.2%)となる見込みであります。修正後の通期予想の対前年実績比は、売上高226.7%経常利益259.4%であります。

連結上、請負事業におきましては大幅な増収増益が見込まれます。

(人材支援事業)

当四半期中にカウンセリングによる人材支援事業への進出のため(株)グッドウィル・フォーサイトを設立いたしました(当社出資比率76.5%)。同社は、主にアメリカで普及しているEAP(社員支援プログラム)により、各企業の従業員のあらゆる課題、悩みを認知行動心理学に基づく科学的かつ統計学的なカウンセリングで解決する一方、リストラ等で人員削減中の企業の従業員に対し、再就職支援を同様のカウンセリングを提供しつつ実行してまいります。

同社は、第2四半期以降当社の連結対象となる見込みであります。第2四半期におきましては、初期投資費用の発生が考えられますが、既に外資系企業等より大口受注を受けており、下半期以降は黒字に転換する見込みであります。当連結会計年度におきましては、若干の赤字が発生する見込みではありますが、下半期から初期投資の一部が回収されることから、当初の連結計画に及ぼす影響は軽微であると考えております。

(医療・介護事業)

7月15日付で第三者割当増資を実施し、在宅介護サービスを行う(株)コムスンが、当社子会社となり(出資比率74.9%)、第2四半期以降連結対象となる見込みであります。同社は業界に先がけて過疎地での拠点展開や24時間巡回介護サービスを実施する等、品質のコムスンとして社会に貢献してまいりました。同社は、来年4月1日より施行される介護保険制度に合わせて、相当数の拠点増設を計画しており、そのための損失計上が見込まれております。

—(株)コムスの連結業績に及ぼす影響について—

当四半期中(8月24日付)で介護保険制度の報酬仮単価が決定されましたが、同社事業計画における想定仮単価以上の高水準にありました。これにより、介護市場が民間企業の参入可能な健全なマーケットとして発展することが裏付けられる一方で、新規参入企業を含めた一層の競争激化も予想されます。そのため、同社の先行投資として拠点増設が前倒しに行われ、業績の下方修正を行う必要があると考えております。

連結上、当社および(株)グッドウィル・コミュニケーション、(株)コムスの個別業績修正は、当社の連結業績予想に影響を及ぼします。発表日現在、連結業績予想の修正は、以下の通りであります。

(単位：千円)

	売 上 高	経 常 利 益
前 回 予 想 (A)	16,480,993	1,678,379
今 回 修 正 (B)	19,401,492	1,680,369
増 減 額 (B - A)	2,920,499	1,990
増 減 率	17.7%	0.1%

請負事業で上方修正される利益金額は、医療・介護事業の拠点増設のための投資ならびに当期に負担すべき費用にほぼ充当する計画であるため、連結利益面に与える影響は軽微であると考えております。